第６回先進的AI利活用アドバイザリーボード

令和８年度第１回
各府省庁生成AIシステム定期報告概要

2026/9/29　　先進的AI利活用アドバイザリーボード事務局

© Digital Agency, Government of Japan

デジタル庁
Digital Agency

各府省庁生成AIシステム定期報告概要（令和８年度第１回）

- 全府省庁において生成AIシステムを利用しており、利用中の生成AIシステムの件数は252件
- 報告事項について**ガイドラインの改定を踏まえて一部を修正**（主なものに下線。選択式に変更したものなども含む）
- 令和８年６月末時点までで、リスクケースの発生事例はなし

調査概要	令和８年６月末時点での生成AIシステムの利活用状況を、令和８年７月に各府省庁より報告
主な分析軸	■ 利用類型（汎用チャット型 / 定型業務特化型 / 特定データ参照型 / **業務ツール・システム組み込み型** / **自律型AIエージェント** / その他） ■ 利用開始時期（利用開始前 / 利用開始済み） ■ 利用者の範囲（単一府省庁のみ / 複数府省庁まで / 外部 / その他） ■ 導入段階（検証段階 / 常用段階） ■ 取扱情報の機密性（機密性１のみ / 機密性２以上をプロンプトに入れる / 機密性２以上を参照 / 機密性２以上を追加学習） ■ 入力データの種類（テキスト / 画像 / 音声 / 動画 / その他） ■ 出力の種類（テキスト（Wordファイル等含む） / 画像（イラストが含まれたPowerPointスライド等含む） / 音声 / 動画 / **タスクの実行** / その他） ■ 利用用途（テキスト系 / 画像 / 音声 / 動画生成系 / 開発 / 新規施策系の大分類による分析） ■ 生成AI利用環境類型（SaaS・API型 / 政府共通基盤等活用型 / オンプレミス型 / ハイブリッド） ■ 利用（検討）モデル ■ 成果目標（定量成果目標あり / 定性成果目標あり / 成果目標なし）及び**実績**（把握している場合） ■ 高リスクか否か （高リスクと判断 / **リスク判定ロジック上は高リスクの可能性があるが、適切なリスク対応策を講じたため、高リスクではないと判断** / リスク判定ロジック上高リスクではないと判断 / 未定）

© Digital Agency, Government of Japan

（参考）選択肢の考え方

- 利用類型、生成AI利用環境類型の選択肢は、以下の考え方のもと各府省庁から報告している

項目	選択肢	選択肢の説明・補足
利用類型	1．汎用チャット型	ユーザーがプロンプトを入力（ファイル添付等含む）
	2．定型業務特化型	業務に特化したプロンプトが事前に設定されている（文字起こし、翻訳等）
	3．特定データ参照型	RAG等を活用し特定のデータ等に基づき出力
	4．業務ツール・システム組み込み型	業務ツール・システムに組み込んで活用
	5．自律型AIエージェント	指示等を基に生成AIがプランを作成し、ツール等を自動実行
	6．その他	ー
生成AI利用環境類型	1．SaaS・API型	インターネット経由でSaaS・APIを利用
	2．政府共通基盤等活用型	ガバクラ・共通PF・GSS等で提供される生成AI機能・サービスを活用
	3．オンプレミス型	自らのサーバ上でローカルLLM等を活用
	4．ハイブリッド	１又は２と３を併用して構築

© Digital Agency, Government of Japan

分析方法変更

政府職員の生成AIシステムの利用類型×利用者の範囲

- **25府省庁中、21府省庁**において、府省庁内全体で生成AIを利用開始済み（前回報告から１府省庁増）
- 前回に引き続き**課室単位での利用は減少傾向**にあり、府省庁単位での利用への移行が一定程度進んでいる。
- 汎用チャット型が最も多い点は変わらないが、一部限られた利用者の範囲において**AIエージェントの利活用が徐々に開始**されている

利用者の範囲	利用類型・利用開始状況												案件数	
	汎用チャット型		定型業務特化型		特定データ参照型		業務ツール・システム組み込み型		自律型AIエージェント		その他			
	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	今回報告	前回報告
1．単一府省庁のみ-課室単位以下	61	4	29	1	22	3	6	2	4	1	5	1	**107**	**116**
2．単一府省庁のみ-部局単位（複数部局での利用を含む）	29	11	15	1	13	7	10	2	3	2		1	**53**	**45**
3．単一府省庁のみ-全体	29	1	10		11	1	6				1		**40**(21)	**37**(20)
4．複数府省庁による利用	2	1	2		7	2					2	1	**13**	**9**
7．その他	7	3	5	1	6	4	2	1	1	1			**17**	**9**
総計	**128**	**20**	**61**	**3**	**59**	**17**	**24**	**5**	**8**	**4**	**8**	**3**	**230**	**216**

政府職員を利用者とするもののみを対象
「単一府省庁のみ-全体」に記載の「(数値)」は、重複削除した際の府省庁数を示している
集計の見直しにより、前回報告における「１．単一府省庁のみ-課室単位以下」「２．単一府省庁のみ-部局単位」の合計数値は、第５回アドバイザリーボード資料からそれぞれ１件変更している

© Digital Agency, Government of Japan

政府職員の生成AIシステムの導入段階ごとの利用類型×利用者の範囲

- **システム組み込み型は常用段階で利用**されるケースが一定数存在
- **自律型AIエージェントも常用段階の利活用**が徐々に開始されている

利用者の範囲・調達段階		利用類型・利用開始状況												案件数	
		汎用チャット型		定型業務特化型		特定データ参照型		業務ツール・システム組み込み型		自律型AIエージェント		その他			
		開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	今回報告	前回報告
1．単一府省庁のみ-課室単位以下	常用段階	38	1	21		13	1	2		3	1	4		65	74
	検証段階	23	3	8	1	9	2	4	2	1		1	1	42	42
2．単一府省庁のみ-部局単位（複数部局での利用を含む）	常用段階	20	4	12		7	1	6	1	2	1			32	26
	検証段階	9	7	3	1	6	6	4	1	1	1		1	21	19
3．単一府省庁のみ-全体	常用段階	26	1	10		10	1	5				1		36	32
	検証段階	3				1		1						4	5
4．複数府省庁による利用	常用段階			1		5						1		7	4
	検証段階	2	1	1		2	2					1	1	6	5
7．その他	常用段階	6		3		4	1	1			1			10	4
	検証段階	1	3	2	1	2	3	1	1	1				7	4
総計		128	20	61	3	59	17	24	5	8	4	8	3	230	215

同一カテゴリ内で常用段階・検証段階を比較した際に、特により多くの案件数がある調達段階を色分けで示す

政府職員を利用者とするもののみを対象

© Digital Agency, Government of Japan

分析方法変更

政府職員の利用する生成AIシステムの取扱情報の機密性

- 機密性２情報を取り扱う案件は、プロンプト又はRAGで参照する事例がほとんどである傾向に大きく変化はない
- 自律型AIエージェントにおいても、一部機密性２情報の取扱いが開始されている

		利用類型・利用開始状況												総計
		汎用チャット型		定型業務特化型		特定データ参照型		業務ツール・システム組み込み型		自律型AIエージェント		その他		
		開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	
情報の機密性	１．機密性１情報のみ取り扱う	76	10	32		22	4	7	2	5	2	5	1	**166**
	２．機密性２情報や個人情報を利用者が指示文に入力する	43	3	19	1	20	4	13	1	3	1	2		**110**
	３．機密性２情報や個人情報を参照して回答を生成する	23	6	17	1	28	7	10	1	2		1		**96**
	４．機密性２情報を生成AIの追加学習（強化学習やファインチューニング等）に用いる	3		1		3		1				1	2	**11**
総計		**145**	**19**	**69**	**2**	**73**	**15**	**31**	**4**	**10**	**3**	**9**	**3**	**383**

政府職員を利用者とするもののみを対象
報告件数の合計は252件であるが、「利用類型」と「情報の機密性」がともに複数選択式のため合計値が異なっている

© Digital Agency, Government of Japan

分析方法変更

政府の生成AIシステムの外部向けの利用類型×導入段階

- 外部向けの利用類型では、特定の外部利用者に対する情報提供にRAGを活用するものが一定数ある傾向に大きく変化なし

		利用類型・利用開始状況												案件数
		汎用チャット型		定型業務特化型		特定データ参照型		業務ツール・システム組み込み型		自律型AIエージェント		その他		
利用者の範囲	導入段階	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	開始済	開始前	
5．特定外部者による利用	常用段階			1		1								2
	検証段階		4	1		4	2		1				1	12
6．不特定外部者（一般国民等）による利用	常用段階	1	1	1		1						4		8
	検証段階													
総計		1	5	3		6	2		1			4	1	22

【不特定外部者向け、常用段階、利用開始済の事例】

国民等による国・地方自治体への問い合わせのチャットボット

- **目的**：国民等による国・地方自治体への問い合わせの負担軽減
- **概要**：国民等が国等へ問い合わせを行いたい場合に、本チャットボットを利用。入力された質問情報に対し、生成AIを用いて、当該質問の意図・文意を把握し、事前に格納しているFAQと関係のある質問か否かを判別しつつ、質問内容を生成する。生成された質問に対し、FAQ等の情報を検索し、その結果を基に、生成AIにより模擬回答を生成する。生成した質問及び生成した模擬回答を用いてFAQの質問・回答についてベクトル検索を行い、利用者へFAQの質問・回答候補を提示する。このように、生成AIを用いることで、チャットボットの回答精度を向上させ、国民・地方自治体職員の負担軽減を図る。

特定少数及び不特定多数の外部の方を利用者とするもののみを対象
報告件数の合計は252件であるが、「利用類型」が複数選択式のため合計値が異なっている

© Digital Agency, Government of Japan

入力データ・出力の種類

- 入力データ、出力ともにテキストの入出力での利活用が基本だが、その他の種類での利活用も実施されつつある

入力データの種類	集計	前回件数	内訳（音声・動画）	内訳集計	前回件数
1．テキスト	252	241			
2．画像	12	6			
3．音声	14	13	録画・録音の活用	3	3
			リアルタイムの入力	11	10
4．動画	4	3	録画の活用	4	3
			リアルタイム入力	0	
5．その他	0	1			

出力の種類	集計
1．テキスト	237
2．画像	79
3．音声	22
4．動画	12
5．タスクの実行	9
6．その他	4

- HPに掲載するアニメーション動画の作成
- 広報課において作成する広報用動画作成業務において、複数動画の多言語版作成・発信を行うため、生成AIを活用。既に公開されている広報用資料、各種会議資料、ピンナップ資料などを用いて動画を生成し、あわせて自動での他言語への翻訳・読み上げ音声データの生成を行い、動画撮影・編集、翻訳にかかる業務負担を軽減

- 申請の一次審査及び申請者への修正依頼文案の生成、相談者に対する回答例の生成等
- タスク実行によるプログラムテストの実施
- 公開情報のみを用いた政策シミュレーションのシナリオ作成から実行、分析・評価までを実施し、今後の政策立案に対応し得るノウハウを蓄積

入力データの種類は、利用用途等を踏まえての分析であるため、機能上の利用可否の情報と必ずしも一致しない
入力データ・出力の種類双方において、1案件に対して複数割り当ての分析としているため、総数は必ずしも案件の総数と一致しない

© Digital Agency, Government of Japan

利用用途（全体概要）

- テキスト系は傾向に大きな変化はないが、**分析・比較・ラベル付けの利用**が伸びている
- 画像、音声、動画の生成は、全体的に利活用が徐々に伸びている
- 外部向けのテキスト応答や、**単一府省庁外への生成AIを組み込んだサービス提供**にも伸びが見られる

大分類	利用用途	件数	割合（対全件数）	前回件数	前回割合（対全件数）
テキスト系	文章執筆（メール等ドラフト）	58	23.0%	48	19.9%
	添削・校正	32	12.7%	29	12.0%
	要約	58	23.0%	69	28.6%
	翻訳	49	19.4%	50	20.7%
	ブレスト・アイディア出し	14	5.6%	10	4.1%
	論点の整理	15	6.0%	8	3.3%
	分析・比較・ラベル付け	57	22.6%	20	8.3%
	用語の意味の検索	6	2.4%	5	2.1%
	調査・リサーチ（府省庁内部データのみ）	63	25.0%	62	25.7%
	調査・リサーチ（Webサイト等外部データ）	78	31.0%	74	30.7%
	テキストのみ資料生成	66	26.2%	68	28.2%

大分類	利用用途	件数	割合（対全件数）	前回件数	前回割合（対全件数）
画像/音声/動画生成系	(画像)画像含む資料生成	15	6.0%	12	5.0%
	(画像)資料の図解・図表生成	3	1.2%	1	0.4%
	(画像)広報・SNS・宣伝用コンテンツ生成	9	3.6%	0	-
	(音声)音声ナレーション・読み上げ生成	3	1.2%	2	0.8%
	(音声)音声応答	0	-	0	-
	(動画)動画生成	5	2.0%	3	1.2%
	その他生成	0	-	3	1.2%
開発/新規施策系	関数・マクロ生成	9	3.6%	7	2.9%
	プログラムコード生成	17	6.7%	10	4.1%
	自律的対話型タスク実行	4	1.6%	1	0.4%
	外部向けサービス自動化（テキスト応答）	26	10.3%	6	2.5%
	外部向けサービス自動化（その他）	3	1.2%	0	-
	生成AI組込みサービス提供（対単一府省庁外）	28	11.1%	9	3.7%

利用用途等、フリーテキストで報告されている情報ベースの分析であるため、実務の利用状況が必ずしも本分析結果と直結するわけではない

© Digital Agency, Government of Japan

利用用途（テキスト系）

- テキスト系の利用においては、複数の要素を組み合わせ、かつ高度な組み合わせを活用している例が見られる

大分類	利用用途	件数	割合 (対全件数)
テキスト系	文章執筆（メール等ドラフト）	58	23.0%
	添削・校正	32	12.7%
	要約	58	23.0%
	翻訳	49	19.4%
	ブレスト・アイディア出し	14	5.6%
	論点の整理	15	6.0%
	分析・比較・ラベル付け	57	22.6%
	用語の意味の検索	6	2.4%
	調査・リサーチ（府省庁内部データのみ）	63	25.0%
	調査・リサーチ（Webサイト等外部データ）	78	31.0%
	テキストのみ資料生成	66	26.2%

【情報収集、分析等での活用の事例】

情報収集、資料作成の効率化及び将来的な技術レベルの向上に向けた活用

- **目的**：情報収集、資料作成の効率化や、将来的に政策立案支援に資する技術レベル、シミュレーション技法の研究・向上
- **概要**：調査研究業務において、情報収集、資料作成の効率化のため生成AIを活用するとともに、政策シミュレーション（公開情報のみを使用）に活用しシミュレーションのシナリオ作成からシミュレーションの実行及び分析・評価を実施し、政策立案支援に対応し得るノウハウの蓄積、ネットワーク上の最新情報に基づく複数回のシミュレーションを実行し、その精度を逐次向上させ、将来的には政策立案支援に資する技術レベル、シミュレーション技法の研究・向上に資する活用を行う

【情報収集、要約、翻訳、情報の分類及び構造化での活用の事例】

複数用途を組み合わせた効果的な活用

- **目的**：情報収集、翻訳、要約、情報の分類及び構造化の効率化
- **概要**：海外の情報も対象にした情報収集業務において、情報収集・翻訳・要約・情報の分類及び構造化（重要情報の識別等）を効率化するため、生成AIを活用。具体的には、RSSリーダー及びクローラーを作成し情報収集を行い、収集した情報に対して翻訳・要約・構造化を実現する。

利用用途等、フリーテキストで報告されている情報ベースの分析であるため、実務の利用状況が必ずしも本分析結果と直結するわけではない

© Digital Agency, Government of Japan

利用用途（画像/音声/動画生成系、開発/新規施策系）

- 画像、音声、動画の生成に関しては、画面デザイン案の作成等に用いられており、他の利用用途も組み合わされている
- 関数・マクロ生成、プログラムコード生成等は、プログラムコードの生成・改善に加えて、テストケースの作成や技術調査等にも用いられている

大分類	利用用途	件数	割合（対全件数）
画像/音声/動画生成系	(画像)画像含む資料生成	15	6.0%
	(画像)資料の図解・図表生成	3	1.2%
	(画像)広報・SNS・宣伝用コンテンツ生成	9	3.6%
	(音声)音声ナレーション・読み上げ生成	3	1.2%
	(音声)音声応答	0	-
	(動画)動画生成	5	2.0%
	その他生成	0	-
開発/新規施策系	関数・マクロ生成	9	3.6%
	プログラムコード生成	17	6.7%
	自律的対話型タスク実行	4	1.6%
	外部向けサービス自動化（テキスト応答）	26	10.3%
	外部向けサービス自動化（その他）	3	1.2%
	生成AI組込みサービス提供（対単一府省庁外）	28	11.1%

【画像生成での活用の事例】

RAGを活用した情報検索・資料作成

- **目的**：情報検索・資料作成の効率化
- **概要**：システム開発、サービス設計、及びプロトタイプ作成業務において、設計・検討の効率化及び関係者との認識合わせの迅速化を目的として生成AIを活用。具体的には、職員が入力した要件、仕様書、画面設計案等のテキストデータを用いて、画面デザイン案、UIプロトタイプ及び業務アプリケーションの試作を生成・改善。生成結果は、職員が内容を確認・修正のうえで利用。

【プログラムコード生成等での活用の事例】

コード生成、設計レビュー、テストケース作成等

- **目的**：作業時間の削減
- **概要**：内部開発、運用保守、設計検討等において、生産性向上及び開発品質の向上を目的として生成AIを活用。具体的には、設計書、ソースコード、運用手順書、API仕様書、ログ情報等のテキストデータを用いて、要件整理、設計レビュー、プログラムコードの生成・改善、テストケース作成、技術調査及びドキュメント作成支援を実現。生成結果は職員が内容を確認・修正の上で利用。

利用用途等、フリーテキストで報告されている情報ベースの分析であるため、実務の利用状況が必ずしも本分析結果と直結するわけではない

© Digital Agency, Government of Japan

利用類型×利用環境類型

- SaaS・API型においては汎用チャットや、特定データ参照型による利活用の傾向が強い
- オンプレミス型においては、定型業務特化型や、特定データ参照型の割合が比較的高く、カスタマイズの度合いが高く使われている傾向にある

		利用類型						案件数
		汎用チャット型	定型業務特化型	特定データ参照型	業務ツール・システム組み込み型	自律型AIエージェント	その他	
利用環境類型	1．SaaS・API型：インターネット経由でSaaS・APIを利用	110	39	56	20	8	7	**175**
	2．政府共通基盤等活用型：ガバクラ・共通PF・GSS等で提供される生成AI機能・サービスを活用	32	17	17	4	3	4	**47**
	3．オンプレミス型：自らのサーバ上でローカルLLM等を活用	8	11	6	4	1	3	**22**
	4．ハイブリッド（1又は2と3を併用して構築）	4		5	2		2	**8**
総計		**154**	**67**	**84**	**30**	**12**	**16**	**252**

報告件数の合計は252件であるが、「利用類型」が複数選択式のため合計値が異なっている

© Digital Agency, Government of Japan

情報の機密性×利用環境類型

- オンプレミス型では、機密性２情報や個人情報を取り扱っている案件の割合が他の類型と比較して大きい
- オンプレミス型かつ、生成AIモデルでOSSを利用する案件は、機密性２情報や個人情報を取り扱っている案件の割合が大きい。それらの案件のなかには、外部から収集・提供されるデータやプライバシーに関するデータ等を用いるため、情報セキュリティ等を考慮する必要がある案件が一定程度見受けられる

全案件

「利用（検討）している生成AIモデル」設問での、選択状況による区別なし

		情報の機密性				案件数
		機密性１情報のみ取り扱う	機密性２情報や個人情報を利用者が入力	機密性２情報や個人情報を参照して出力	機密性２情報を生成AIの追加学習に用いる	
利用環境類型	SaaS・API型	122	31	31	1	175
	政府共通基盤等活用型	15	28	15	2	47
	オンプレミス型	6	9	9	2	22
	ハイブリッド（1又は２と３を併用して構築）	6	2	2	1	8
総計		149	70	57	6	252

OSS選択案件のみ

「利用（検討）している生成AIモデル」の設問で、OSSを選択した案件のみ

		情報の機密性				案件数
		機密性１情報のみ取り扱う	機密性２情報や個人情報を利用者が入力	機密性２情報や個人情報を参照して出力	機密性２情報を生成AIの追加学習に用いる	
利用環境類型	SaaS・API型	3	1	2		4
	政府共通基盤等活用型					0
	オンプレミス型	2	5	3		9
	ハイブリッド（１又は２と３を併用して構築）	1				1
総計		6	6	5	0	14

全案件の集計表において、報告件数の合計は252件であるが、「情報の機密性」が複数選択式のため合計値が異なっている

© Digital Agency, Government of Japan

一部非公開

成果目標

- 成果目標の設定件数は増加
- 実績では問合せ業務に関する件数及び時間の削減において一部効果のあるものが見受けられた

成果目標の有無	件数	前回報告件数
成果目標あり（定性）	74	54
成果目標あり（定量）	51	40
成果目標なし又は汎用チャット型のため回答省略	127	147
総計	**252**	**241**

*「利用類型」の集計方法が変更となっているため、参考用の件数比較であり厳密な比較の数字ではない点に注意が必要である

© Digital Agency, Government of Japan

デジタル庁
Digital Agency

© Digital Agency, Government of Japan